

# 沼津高専だより

第117号

令和2年7月17日発行

独立行政法人国立高等専門学校機構

沼津工業高等専門学校

〒410-8501 沼津市大岡3600

TEL 055-921-2700 URL <http://www.numazu-ct.ac.jp/>



沼津高専の遠景



柿田川VR化プロジェクト



課題研究の作品（立体視画像）の展示



遠隔授業の実施

## 目次

## ☆新年度にあたって (年度方針等)

『できなかつたって、いいじゃないか!』……………	学校長	中村 聡 ……	3
コロナ禍を乗り越えて前へ……………	副校長 (総務主事)	小林 隆志 ……	3
変わったこと、違ったこと、その捉え方……………	校長補佐 (教務主事)	稲津 晃司 ……	4
今この時を大事に……………	校長補佐 (学生主事)	小林 美学 ……	4
国際的な視野を身につけた技術者の育成と学寮……………	校長補佐 (寮務主事)	遠山 和之 ……	5
挑戦する気持ちを大切に……………	校長補佐 (専攻科長)	芳野 恭士 ……	6
学生の〈平和〉な毎日を願って……………	学生生活支援室長	小林 美恵子 ……	6
再認識できたこと……………	機械工学科長	新 富 雅 仁 ……	7
パワーとスピードを武器に……………	電気電子工学科長	大津 孝佳 ……	7
手探りでのスタート……………	電子制御工学科長	牛丸 真司 ……	8
麒麟を連れてくる技術者……………	制御情報工学科長	長 縄 一 智 ……	8
新年度を迎えて……………	物質工学科長	竹口 昌之 ……	9
コロナ禍のなかで学んでほしいこと……………	教養科長	佐藤 崇徳 ……	9

## ☆人事異動について

令和2年度 人事異動……………	10
令和2年度 校務分掌……………	11
令和2年度 クラブ・同好会顧問教員……………	12

## ☆着任挨拶

高専という場所に帰ってきて……………	電子制御工学科	香川 真人 ……	13
--------------------	---------	----------	----

## ☆教育後援会から

教育後援会にできること、しなければならないこと……………	教育後援会会長	土屋 善隆 ……	13
------------------------------	---------	----------	----

☆三つのポリシー……………	14
---------------	----

## 新年度にあたって (年度方針等)



『できなくたって、  
いいじゃないか!』

学校長  
中村 聡

4月に藤本品先生の後任として着任しました。簡単に自己紹介させていただきます。出身は東京工業大学で、学生時代は本校第4代学校長の慶伊富長先生にご指導いただきました。大学院修士課程を修了後、帝人株式会社で10年間、医薬品の開発研究に携わりました。博士号を取得した後に母校に戻り、この3月末までの30年間を助手・助教授・教授・副学長として過ごしました。専門は生物工学です。具体的には、過酷な環境で生育する“極限環境微生物”の研究を行ってきました。

私の研究対象のひとつに“ハロアーキュラ・ジャポニカ”という名前(学名)の微生物があります。食塩濃度の高い環境を好む、極限環境微生物の仲間です。顕微鏡で微生物を観察したことがない方が多いと思いますが、通常の微生物は球状や円柱状の形をしています。ところが、ハロアーキュラ・ジャポニカはなんと三角形平板状の形をしており、“三角菌”ともよばれます。コンビニエンスストアで売られているおにぎりの形を思い浮かべてください。三角菌は飽和食塩水の中でも元気に生育し、岩塩の中でも生存可能です。このような高塩環境で生育可能な生物はほかにいないため、三角菌はその環境に存在する栄養分を独り占めし、悠々自適の生活を送っています。一方、三角菌の細胞を真水にさらすと、細胞内外

の浸透圧を一定に保とうとして水が細胞内に流入するため、細胞はたちまち破裂して死んでしまいます。三角菌は高塩環境で生育する能力を獲得した代わりに、多くの生物が好む普通の環境で生育する能力を失ったことになります。

最近、書店で見かけた面白い書籍に『できなくたって、いいじゃないか!』(佐藤克文・監修、サンマーク出版)があります。そこには、「ペンギンは空を飛ぶことを諦めた代わりに、海の中を飛ぶように泳ぎ回る能力を獲得した」と書かれていました。私には、このペンギンの向こうに三角菌や人間が重なって見えてきます。なんでも人間はひとりで生きることを諦めた生物とのことで、「ひとりで生きることを諦めた代わりに、互いに助け合う力を手にした」という素敵な結論が導き出されていました。人間はひとりですべてのことができる必要はなく、ひとつだけでも得意なことがあれば誰かと助け合うことができるというのです。

沼津高専の学生諸君も、必ずしもひとりですべてのことができなくても構わないと思います。ただし、自分の専門分野に関しては誰にも負けないくらいの気概とプライドをもって勉学に励み、充実したキャンパスライフを送ってください。そして、卒業時には本校の教育理念にある“人柄のよい優秀な技術者”となって、社会に羽ばたいてください。さまざまな人間が助け合うことで成り立っているこの社会の中で、そう遠くない将来、必ずや諸君のできないことを補ってくれる人間に出会うことができるでしょう。教育理念の“世の期待にこたえよ”が、夢から現実に変わる瞬間です。学生諸君の社会での活躍を、赴任早々の今から楽しみにしています。



コロナ禍を乗り越えて  
前へ

副校長(総務主事)  
小林 隆志

昨年度まで、教務主事として学生の皆さんの学修面の支援をしてまいりましたが、今年度は総務主事として、学校運営全般に関しての仕事をを行います。よろしく願います。

今年度は新型コロナウイルス感染症がこれほどまでに全世界に深刻な影響を与えるとは予想もできませんでした。心待ちにしていた東京オリンピックが延期となったばかりでなく、社会や経済に与えたダメージは計り知れません。本校でも4月に対面による授業を開始することができず、5月19日より遠隔通信による授業を開始いた

しました。本来の対面での授業とは異なり不自由な点もありますが、新しい時代の学修の手法として発展的に活用したいと考えています。この間教育後援会にはいろいろとご支援を賜り心より感謝いたします。

この4月に中村校長が着任されました。中村校長は前任の東京工業大学で副学長(国際広報)を務めるとともに、教育研究面では本校の卒業生も指導されており、本校卒業生を高く評価しています。専攻科生の学位授与関係の仕事もされていて、高専をよく理解されています。中村校長のリーダーシップの下で新たな沼津高専に向けて歩いていきたいと思えます。

藤本前校長は5年間にわたり沼津高専の運営にあたられ、3月で退任されました。高専生が「高専卒」として自信をもって社会に出られるようにというお考えの下、学生の皆さんの視点での教育改善に取り組み、学習サポートセンターの設立、教務関係などの学内の関係規則の改正などを通して、留年・退学者をできるだけ少なくして

社会に卒業生を送り出すようご尽力されました。教育後援会との連携も深めました。藤本校長の退任のメッセージはWeb上で学生の皆さんにお伝えしましたが、チャレンジのすすめ、一生懸命、沼津高専に誇りを持ってほしいことなど、藤本前校長の熱いメッセージを受け止めて下さい。

昨年度末に沼津信用金庫が沼津駅北口に整備した「ぬましんCOMPASS」の中に沼津高専のサテライトオフィス“N-com”が開設されました。1階にはIT企業が、2階にはベンチャー企業が入り、3階の沼津高専の“N-com”と連携して、新しい情報発信拠点とする計画です。裾野市はトヨタ自動車の未来都市「ウーブン・シティ」と協調した、「スソノ・デジタル・クリエイティブ・シティー

構想」を発表しました。沼津高専も協力の検討をしています。また、今年度より、芝浦機械株式会社との協力講座「先端ものづくり工学」を開講しました。地元と連携して、学生の皆さんがワクワクするような体験ができる環境を整えてまいります。今のコロナ禍の困難な状況を乗り越えて、新しい時代に向けた社会の変化を取り入れ、沼津高専独自の新しい特徴ある技術者教育を目指したいと考えています。

本校で学ぶ学生の皆さんが将来の技術革新の主役です。沼津高専で学修と経験を重ね、新しい時代を切り拓く技術者となることを願っています。保護者の皆さまには引き続きご理解とご支援をお願いいたします。



## 変わったこと、違ったこと、その捉え方

校長補佐（教務主事）  
稲津 晃 司

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のため、これまでと異なる社会情勢の下、国内ほとんどの高等教育機関と同様に、本校もこれまでになかった、はじめての教育を始めています。学生のみなさんが登校しないで、自宅等で授業を受ける遠隔通信による教育です。

使い慣れていないアプリをPCやスマホで使うこと、毎日、長時間にわたって画面を見ることなど快適でないことが多い人いると思います。友人や教員との対面での学修や談笑、卒業研究などの研究、実験、実習、そして課外活動を学内で実施できないことが、学校生活の醍醐味を、大きく損ねてしまっているとも思います。遠隔通信のみによる教育は、全ての面で最良と考えて開始したものでなく、学生のみなさん、保護者各位、本校教職員他の安全と健康を第一に考えた選択とご理解いただきたく、お願いするものです。もちろん、その一方で地域とそれを取り巻く社会情勢を注視して、登校しての教育実施の機会を見出します。

遠隔通信での授業実施により、当初の授業計画は、学修内容についても評価方法についても一定変更せざるを

得ません。ですが、今年度の課程で修得すべき事柄を学生のみなさんに身に付けてもらうよう教育することにより変わりありません。方法の変更による不利益がないように細心の注意を払って実施していきます。これは、昨年度から伝えているように本校（高専）が、「学校が学生のみなさんに何をどう教えたか」から「学生のみなさんが学校で学んだことにより、何がどれくらいできるようになったか」について保証すべく取り組んでいることと関係します。

ところで、「できる（はずだった）こと」ができなくなっていることに不満を持つことは、満足したいという気持ちの表れであり、決して悪いことではありません。満足するために必要なことを考え、取り組むために、むしろ大切です。一方で、不平を言うことは、建設的になりやすく、好ましいことではありません。不平は、不満と並べて使われることもあり、両者は混同されがちですが、異なります。不平は愚痴（言っても仕方のないこと）をこぼしている状態と言え、不満は文字通り、満足していない状態と言えます。

不満を持つ現状をどのように捉え、どのように取り組むかは、成長の機会を見出す能力の涵養に大変重要だと思います。これまで通りが大切なことはたくさんあります。その、これまで通りにならない時にどのようにするか、今は試されている時かもしれません。挑戦を楽しめれば、違った景色が見えてくると思います。



## 今この時を大事に

校長補佐（学生主事）  
小林 美学

今年度から学生主事を務める小林美学です。昨年一年間は東京高専に人事交流に出かける機会に恵まれました。

留守の間は多くの方々に御迷惑をかけたかと思いますが、大変刺激を受けた一年間でした。同じ高専でもずいぶん異なることが多く、多くのことを学ぶとともに、沼津高専のよさも改めて感じました。一年間の経験を、ぜひ沼津高専で活かしたいと思います。

さて、4月に久しぶりに沼津高専の学生たちに会えることを楽しみにしていたところですが、世の中の新型コロナウイルス感染の影響で始業が大きく遅れ、始業式も遠隔での実施となってしまいました。この原稿を書いて

いるのは、遠隔授業が始まって2週間が経つ5月末です。この原稿を載せた高専だよりが発行される7月下旬には、今より状況が好転していることを願っています。

通常通りのスタートができず、多くの学生とは遠隔授業やメールなどでしか接することができない中、学生たちのようすが気になっています。いつもであればまわりに友達がいって、何気ない一言に助けられたり気付かされたりしながら日々の生活を送っているところですが、それができない中です。時にはうるさく感じても級友がいつもまわりにいる、そんな何気ない日常が実はかけがえないものだと感じている学生も多いことでしょう。

課外活動についても、昨年度末から見合わせの状態が続いています。保護者のみなさまにもKメールでお知らせしましたとおり、高専体育大会も全国大会、地区大会ともに中止となりました。今後の学校行事についても予

定通りに実施できるか分からないところがあり、その他にも心配なことは細かいことも含めて多々あります。

それでも5月末のこの時点で県内の感染状況はだいぶ落ち着いてきました。まだまだ予断は許されませんが、この原稿を書いている時点でこの最近の落ち着き具合は多くの人が外出を控え、手洗い、マスクの着用などの感染症対策をした結果が形となって現れたものだと受け止めています。決して望んだ形のスタートではありませんでしたが、どんな状況であっても今、過ごしているこの時間はかけがえのないものですし、その中で積み重ねる経験がこれからの私たちをつくっていきます。この状況で過ごした経験が、これまでの経験とはまた違った私たちをつくっていく。そんなことを感じながら学生たちにも今この時を大事にして過ごしてほしいと思っています。



## 国際的な視野を身につけた 技術者の育成と学寮

校長補佐（寮務主事）  
遠山 和之

本年度より校長補佐（寮務主事）を務める遠山です。よろしくお願ひ申し上げます。

私自身も高専時代の5年間をこの学寮で過ごしてきたOBです。当時は4人部屋でスタディールームとベッドルームに分かれていました。朝7時、夜8時と10時の3回の点呼や起床・就寝時刻は現在と同じです。当時と違うのは、4代校長の慶伊校長在職中に設置された女子寮や5代校長の工藤校長在職中に竣工した翔峰寮です。翔峰寮は全室個室の5階建て他の6つの寮とは全く異なる建物でした。寮食堂や風呂も当時より広くきれいになりました。

4月から秀峰寮の改築工事が始まりしました。ダイバーシティ化の推進、女性の科学技術分野への積極的な参画の実現、グローバル化推進に伴う留学生への対応に向け、女子学生や留学生の居室を確保すべく、令和元年度より全国の国立高専で「国際寮」の整備が進められており、本校学寮の改築もこれに伴うものです。私の頃は男子ばかりの無骨な寮でしたが、今後は、「生活の場」「人間形成の場」だけでなく、「多様な人たちとのコミュニケーションを図る場」となり、国際的な視野を身につけた技術者が育つことが期待されます。個人的には寮が井形初代校長の遺訓である「人柄の良い優秀な技術者となって、世の期待にこたえよ」を実践する技術者を育成する一助になればとも思っております。

本年度4月より留学生6名を含めて504名の寮生でスタートする予定でした。ご承知の通り新型コロナウイルスの影響により、5月末現在開寮出来ておりません。寮

生や保護者の皆様には、大変ご迷惑をおかけしており寮務主事としてお詫び申し上げます。今回寮食堂や風呂等での感染リスクの低減を図るべく自宅通学への切替のお願いをさせて頂きました。ご協力頂いた寮生及びその保護者の皆様には心よりお礼申し上げます。1日も早く開寮させるべく関係教職員で寮生活での感染予防策に万全を期す所存です。

本年度の寮務関係教員は、寮監 合田先生、寮務主事補 青山先生、眞鍋先生、芳賀先生、寮務委員 鈴木尚人先生、香川先生、山崎先生、駒先生、黒澤先生です。寮長はM4古田さん、副寮長はM4中野さんとD4近藤さんです。寮長の古田さんが中心となりTeamsを使った遠隔での寮生会の活動をスタートしております。例年とは異なりますが、新入生の皆さん、是非Teams内の寮生会活動を通して、寮を知り、身近に感じて頂ければと思います。

保護者の皆様にはこのような非常時にも関わらず学寮運営にご理解とご協力を頂きありがとうございます。今年1年、寮生が安全に過ごせますよう尽力しますので引き続きのご支援をお願いします。





## 挑戦する気持ちを大切に

校長補佐（専攻科長）  
芳野 恭士

今年度の専攻科長を務めます芳野です。私自身は、平成18年度から平成22年度の5年間専攻科長を務めておりましたので、今回で二度目となりますがよろしくお願ひいたします。4月に新入生29名を迎えて、1、2年生を合わせて54名の学生が在籍しています。専攻科の担当教員は常勤が61名、非常勤が7名で、手厚い指導による少人数教育を実践しています。

専攻科では、本科で身に付けたそれぞれの専門分野の知識や技術にさらに磨きをかけ、大学評価・学位授与機構による機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学といった専門分野で学士（工学）を取得することになります。従って、専攻科の修了時には大学院への入学が可能ですし、就職も大学卒業と同等に扱われます。また、専攻科は本科の5学科の専門分野の垣根をなくし、環境エネルギー工学コース、新機能材料工学コース、医療福祉機器開発工学コースの3コースから成る総合システム工学専攻で構成されており、様々な分野の学生と共にこれらの先進複合分野を学ぶことができます。今後も、特徴ある教育課程をもとに、しっかりとした基礎能力に

基づいた視野の広い技術者の育成のための工夫を行っていきたいと考えています。

専攻科生の進路については、昨年度は、27名の学生が修了し、就職が16名、進学が10名、その他が1名となっています。コロナウイルス感染症の流行の中、企業の求人活動の多くがインターネットにその場を移しており例年とは異なる状況ですが、今年度も2年生の約3/5に当たる学生が就職を希望しており、積極的に就職活動を行っています。大学院への進学に向けての活動は、夏場が中心となります。

さて、今年度は当初よりコロナ禍により始業が遅れ、また、始業後も6月初めの現在、遠隔による授業が続いています。しかしながら、非常勤の先生方の講義を含めたほぼすべての科目が、それほど大きなトラブルもなく実施されている状況と思います。いつもと違う環境ですが、こういうときだからこそ自分なりの学習への取り組み方法などについて見直し、工夫することが可能です。専攻科生のみなさんは、すでに5年間の専門分野の学習で、技術者の卵としての能力が身に付いています。是非、こういった機会を自分の力を試す、思い切った挑戦を試みる良いきっかけにしてほしいと思います。今後とも、学生や社会にとって一層魅力のある教育課程を提供することを目指して努力して参りますので、本校専攻科の教育活動にご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



## 学生の〈平和〉な毎日を願って

学生生活支援室長  
小林 美恵子

2020年度の春は、思いがけない波乱の幕開けとなりました。遠い外国のことと思っていた感染症の波が国内に及び、自分の身近なこととなるまでに、いくらの時間もかからなかったと記憶しています。

現代を生きる日本人にとって、もっとも大きな災いと言えば、先の大戦が想起されます。が、今回の感染拡大も含め、最近では、すでに戦時下に近い、あるいはそれ以上の困難の中に身を置く人々が多いことを考えさせられています。―「日本は平和だ」と口にされるが、本当にそうなのか―。誰の言葉か正確に引用できませんが、この問いかけは衝撃的でした。戦時下でなければ平和なのだ、と考えられがちですが、平和の定義を「誰もが心安らかに暮らせる状態」とすれば、現代社会が決してそうではないことに思い至ります。日本の自殺者の数が、イラク戦争の犠牲者の数を上回った、と言われれば、息を呑まざるを得ません。すでに日本社会は単身世帯が家族世帯を上

回る勢いで増えているとのこと、いわゆる古典的な「家庭」や「家族」の中で子供が育ちゆく時代ではないといえるでしょう。そこにこの度の感染拡大も加わり、学生の日常は大きな危機に直面しています。このような中で、学校の役割も変わることを期待されているのでしょうか。本校は工業の高等専門学校であり、特殊な面を多く持っています、大事な成長の一時期を預かる場として、揺りかごの側面も強くしていけたらと願わずにいられません。

昨年一年間、はじめて学生生活支援室に身を置き、学生のようなケースに立ち会ってまいりました。彼らが求める特効薬にはなかなかならず、四苦八苦するばかりで時が経過してしまっていますが、支援室には15人以上のスタッフが関わり、学校中の教職員との連携のもと学生のためのよりよい対応を考え続けています。目指しているのは、学生の心配事や悩みを少しでも緩和し、安心してゆっくりと成長できる〈平和〉な場としての学校づくりです。

学校には校長以下たくさんの教職員がおり、そしてご家庭には保護者の皆様がいらっしゃいます。それぞれの立場から学生たちを見守る〈学校と家庭の連携〉こそが学生の〈平和〉のために何より大切と考えております。何とぞよろしくお願いいたします。



## 再認識できたこと

機械工学科長  
新 富 雅 仁

本年度より機械工学科の学科長を務めることになりました新富です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本年度は残念ながらいつもとは違った形でのスタートとなってしまいました。学科長として年度当初の一番大切な役割は、入学式にて新入生の氏名を読み上げ、入学許可を校長に宣言してもらうことでしたが、これも行うことができませんでした。それでも新1年生はすでに沼津高専機械工学科の大切なメンバーです。遅くなりましたが、あらためて、入学おめでとうございます。

2年生以上のみなさんも、いつもとは違う新年度となり、戸惑いも大きいかと思えます。すでに中止が決定している行事などもあり、残念に思っている人も多いでしょう。5年生はこの状況の中でも就職や進学のための活動は続ける必要があります、大変な思いをしているのではない



## パワーとスピードを武器に

電気電子工学科長  
大 津 孝 佳

電気電子工学科学科長の大津孝佳です。電気電子工学科は教員11名、技術職員1名、学生200名からなる学科です。1年生副担任高矢昌紀教員、2年生副担任眞鍋保彦教員、3年生担任大澤友克教員、4年生担任嶋直樹教員、5年生担任野毛悟教員です。更に、前学科長西村賢治教員の運営支援、就職指導望月孔二教員、入試関連高野明夫教員、教務関連小村元憲教員、共同教育関連山之内亘教員、技術支援原田龍一職員が一丸となって、Society 5.0を担う未来産業人材育成を目指します。既に、新1年生を始め、在校生の皆さんはそのスピードを感じていると思います。学科内コミュニケーションツールGsuiteを活用し、4月に入って、すぐに全学生と全教員がインターネットで繋がり、遠隔HRや遠隔授業を試行錯誤しながらスタートしました。また、3年生が主体となり、新しい発想でのオンライン新入生歓迎会が開催されました。新型コロナウイルス感染症予防の時期だからこそ、できることに挑戦する教員と学生の皆さんを素晴らしいと思います。このパワーとスピードの他にも、電気電子工学科には3つの強みがあります。1つめは、普及型教育の実践として、基礎学力の充実を目指した「Eスタ（E科スタディーププロジェクト）」です。上級生が企画・立案・実

でしょうか。

本年度は、M1佐藤誠（三谷）、M2鈴木久博（西田）、M3金、M4前田、M5永禮の各教員が担任を務めます（カッコ内は機械工学科所属の副担任）。どんなに小さなことでも構いませんので、気になることがあれば相談してください。

さて、遠隔での授業がすでに開始されていますが、私自身はなるべく対面での授業と変わらない授業ができればと日々格闘中です。そんななか、登校開始が実現したときのため、ここ数年は研究室に所属する学生さんに任せていた研究・実験のための準備や装置のメンテナンスなどを行っている中、大変だけれどもすごく楽しいことを再認識できました。登校開始後は、学生のみなさんにも、高専だからこそその授業を楽しんでもらえればと思います。

最後になりましたが、昨年度スタンフォード大学医科大学院にて眼科の診断機器に関する研究に向かっていた鈴木尚人教員が戻られ、本年度、機械工学科は12名の教員で学科の運営にあたります。みなさまのご理解とご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

施し、下級生への学びを伝えていくものです。教えて学ぶ中での成長もこのプロジェクトの良さです。2つめは、強化型教育の実践として、3年生「社会と技術」、4年生「PBL」、5年生「卒業研究」に繋がる各教員の専門技術教育、情報セキュリティ教育、プログラム教育、知的財産教育、共同教育などにより、Society 5.0社会に必要な情報システムを守る「尖った人材育成」を目指します。3つめが地域との連携教育です。富士山や駿河湾、自動車産業など地域特性を活かし、出前授業やKV-BIKE（電池自転車）・環境エネルギー教育など、地域の幼・小・中学校との連携を行っています。本年度も宜しくお願い致します。





## 手探りでスタート

電子制御工学科長  
牛丸真司

本年度は新型コロナウイルスの影響で、通常とは異なる形のスタートとなりました。5月19日からオンラインでの授業を開始していますが、私たち教員も学生も模索しながら進めているのが実際です。今年度の時間割については学科によってスタンスが異なりますが、当科では前期は基本的に遠隔授業になるという想定で、実験・実習科目のほとんどを後期に移行しています。その分後期にしわ寄せがいき、後期はタイトな時間割になりますが、ご理解の程お願い致します。

さて、今年度の学科の運営ですが、この3月に豊橋技術科学大学の博士課程を修了した香川真人先生を迎えて、10名体制でスタートしました。担任は、5年が大沼准教授、4年が鄭教授、3年鈴木静男准教授です。2年と1年の担任は教養科の村上先生と成田先生で、学科からは



## 麒麟を連れてくる技術者

制御情報工学科長  
長縄一智

今年のNHKの大河ドラマ「麒麟（きりん）がくる」をご覧になられたことがありますか。「敵は本能寺にあり」で有名な明智光秀を主人公としたこのドラマのタイトルの「麒麟がくる」とは、荒れた時代（乱世）が終わり、世の中が平穏になると、どこからか、乱世を終わらせた人物が麒麟という動物を連れて人々の前にやって来る、即ち、「麒麟がくる」とは、乱世が終わり、世の中が平和になった証拠である…ということのようです。その真偽のほどはさておき、今、世の中は大変なことになっています。全世界の人々が不安や恐怖を抱く、まさに乱世であります。では、その乱世は永遠に続くのでしょうか。そんなことはありません。医学や薬学、衛生学を含めた広い意味での理工学が医療技術を進歩させ、この乱世を終息へと向かわせます。但し、終息後はもはや元の生活には戻れません。否が応でも、新しい生活習慣、新しい学び方や働き方に移行してしまうのです。つまり、従来、「これしかない」と思われていた方式や習慣がいと簡単に捨て去られ、全く新しいものに置き換えられていく「イノベーション」が急速に具現化するのです。エンジニアの卵である沼津高専生は、変化の兆しをきっちりと捉え、現代の、そして未来の人達から、イノベーションを起こ

副担任として2年に青木准教授、1年に川上教授を配しています。また、就職担当は学科長と兼任になりますがこの3月から牛丸が担当し、4年生の電子機械設計製作は小谷准教授が担当しています。

またコロナの影響の話に戻ってしまいますが、この2月以降の経済的な停滞で、現5年生の就職活動にも影響が出始めています。サービス業に関連する企業はもちろんですが、製造業においても業績悪化で当初予定していた採用枠から実際の採用を絞り込んでいる企業もあります。昨年度までは圧倒的な売り手市場でしたが、今年度以降その様相が変わってくるかもしれません。また、進学についても編入学試験が延期になる、面接試験がなくなるなどの影響が出てきています。そのような状況の中、学科としては学生の就職や進学をしっかりとサポートしていきますが、学生自身も将来のビジョンをしっかりと持って就活や受験に臨めるように学生生活を送って下さい。

この冊子が発行になる頃には、コロナの感染がほぼ終息するか落ち着くかして、一部でも普段の活気のある学校生活に戻っていることを願っています。

した一員と褒め称えられるような、「世の期待に応える優秀な技術者」になってもらいたいと思います。そのためには、今は、一にも二にも勉強です。現在行われている教育の方法は、昨年度までとは大きく異なりますが、身に付ける技術の根幹はそれほど変わりません。物事の本質を捉え、自身の血となり肉となる技術を身に付けることで、間違いなく世の中に新たな何かを生み出し、世の中の期待に応えることができるのです。それこそが「麒麟を連れてくる技術者」なのです。

学科長2年目となりました。引き続き、皆さまのご理解、ご協力を宜しく願います。





## 新年度を迎えて

物質工学科長  
竹口昌之

本年度、学科長を務めることになりました。昨年度末以降のCOVID-19禍において社会全体が大きく変容し、高等教育機関の新しい在り方が問われている中で、学科運営にあたることに大きな責任を感じております。精一杯の努力をいたす所存であります。皆様のご理解とご支援を賜りますよう宜しくお願い致します。

物質工学科の近況を報告します。3月に39名（就職19名、進学20名）が大きな期待を胸に巣立っていきました。COVID-19感染拡大防止のため、例年と異なる式典ではありましたが、直接学生に卒業証書を手渡すことができました。4月には本科入学生41名と外国人留学生1名を迎えました。入学式は中止となりましたが、4月19日の教科書販売の際、緊張した面持ちながらも輝いた



## コロナ禍のなかで 学んでほしいこと

教養科長  
佐藤崇徳

これほど数か月先を見通せないことが沼津高専の創立以来あったでしょうか。これを書いている5月下旬の時点で本校は遠隔授業が始まって2週間が経過しようとしているところですが、皆さんがこの文章を読むときに学校がどうなっているのか私にははっきり分かりません。情報通信技術のおかげで在宅のまま授業を受けることができるとはいえ、教員に気軽に質問や相談をしづらいつ

瞳を持った1年生の皆さんと会うことができました。マレーシアからの外国人留学生ケンジさんは、残念ながらCOVID-19対応のため日本国への入国が出来ておりません。本原稿を執筆している5月下旬において、学生が登校した上での対面授業、実験や実習は実施できておりませんが、早くに本学での対面によるコミュニケーションができることを願っております。

教職員の動向をお伝えします。宇部高専より転籍されていた三留規准教授は退職され、本年度は11名の教員で学科を運営します。担任は本誌にごぞいませ校務分掌の通りでございますが、物質工学科では副担任として3年生に大川教授、4年生に後藤教授が担任とともに卒業にむけたキャリア教育を支援します。

5月18日より遠隔授業により始業しました。私たち教職員が行う遠隔授業も内容や技術面で改善すべきことが多くあることを承知しており、日々試行錯誤しながら善処しております。我々物質工学科教職員は学生を教育目的に掲げた技術者に育成するため、保護者の皆様のご協力をいただきながら、新しい生活様式での学園生活を築いていく所存です。本年度も宜しくお願い致します。

クラスメイトに会うことができないといった不便さや寂しさを学生の皆さんは感じていることでしょうか。1年の地理の授業で「集積の利益」という言葉を取り上げたことを2年生以上の皆さんは覚えているでしょうか。皆が集まることでメリットが生じる。そのような社会で我々は暮らしてきましたが、それが否定されるような事態が生じてしまいました。

新型コロナウイルス感染症による社会への影響を最小限に抑えるためには、医学だけでなく人類が獲得してきた様々な分野の知識や技術が必要です。例えばPCR検査という専門用語が広く知られるようになりましたが、こうした検査機器や医療機器の開発には優秀な工業技術者が何人も携わったはずで、情報通信技術や物流システムは人々の外出自粛生活を支えました。過去にこのような深刻な感染症の拡大により社会に何が起き、それを乗り越えて社会がどのように発展してきたかは歴史を紐解けば知ることができます。それを人々の心により強く訴えるのは、歴史上の事実をもとに創作された文学作品や芸術作品です。ひとつの感染症があつという間に世界へ広がるグローバル社会、しかし各国で異なる様相、この理解には地理的な視点が必要です。“STAY HOME”が呼びかけられる世の中で音楽などに携わる人たちがどのような貢献をしたかを見れば、文化や芸術が社会で果たす役割も再認識できます。

高専生の皆さんには、このような広い視野で社会をとらえ、そのなかで自分が専門的に学ぶ工学を位置付けることができるようになっていただきたいと思います。私たち教員も初めて経験する遠隔授業に試行錯誤しながら取り組んでいます。



## 令和2年度 人事異動について

発令日付	氏名	異動の内容	旧職名等
令和2年3月31日	藤本 晶	定年退職	校長
	松澤 寛	辞職	准教授(教養科)
	三留 規 誉	辞職	准教授(物質工学科)
	西口 美津子	再雇用期間満了退職	嘱託教授
	佐藤 憲 史	再雇用期間満了退職	嘱託教授
令和2年4月1日	雑賀 洋平	群馬工業高等専門学校に配置換	教授
	中村 聡	校長に採用	東京工業大学副学長
	小林 美学	教授(教養科)に配置換	東京工業高等専門学校 教授(物質工学科)
	香川 真人	助教(電子制御工学科)に採用	



令和2年度 校務分掌

Table with columns: 区分, 氏名, 職名, 担当事務, M, E, D, S, C, L. Lists various administrative roles and staff members across different departments.

Table with columns: 区分, 氏名, 職名, 担当事務, M, E, D, S, C, L. Summary table for administrative staff by department.

Table with columns: 学科・学級, 担任氏名, 職名, 副担任氏名, 職名, M, E, D, S, C, L. Summary table for teaching staff by department and grade.

※◎は学年代表

Table with columns: 教科主任, 氏名, 職名, 備考, M, E, D, S, C, L. Summary table for subject teachers.

Table with columns: 委員会名, 役職名, 氏名, 職名, 備考, M, E, D, S, C, L. Summary table for various committees.

令和2年4月1日現在

## 令和2年度 クラブ・同好会顧問教員

クラブ・同好会名	顧 問 教 員 名 (☆は連絡責任者)				
陸上競技部	☆渡邊 志保美	山崎 悟史	金 顯凡		
ソフトテニス部	☆平田 陽一郎	佐藤 崇徳			
バレーボール部	☆大庭 勝久	小田 昇平	高瀬 祐子		
バスケットボール部	☆鈴木 久博	青山 陽子	鈴木 尚人		
野 球 部	☆設楽 恭平	川上 誠	横山 直幸	前田 篤志	香川 真人
	(端川 朝典)				
卓球部	☆芳賀 多美子	高野 明夫	黒澤 恵光		
柔道部	☆端川 朝典				
剣道部	☆新井 貴司	澤井 洋			
サッカー部	☆山之内 亘	長縄 一智	駒 佳明	山根 説子	
ラグビー部	☆井上 聡	鄭 萬溶			
体操部	☆佐藤 誠	後藤 孝信			
水泳部	☆大澤 友克	新富 雅仁	遠藤 良樹		
合気道部	☆眞鍋 保彦	長谷 賢治			
テニス部	☆小村 元憲	西田 友久	竹口 昌之		
スキー部	☆嶋 直樹	小谷 進			
ハンドボール部	☆野毛 悟	高矢 昌紀			
弓道部	☆小村 宏史	小林 美恵子			
空手道部	☆芹澤 弘秀	大久保 進也			
バドミントン部	☆牛丸 真司	藤尾 三紀夫	古川 一実		
トライアスロン部	☆三谷 祐一朗	伊藤 拓哉			
吹奏楽部	☆藁科 知之	山中 仁	永禮 哲生		
囲碁将棋部	☆鈴木 静男				
ロボコン部	☆青木 悠祐	望月 孔二			
天文部	☆大川 政志	住吉 光介			
同好会(理工系)	☆村松 久巳(機)	☆鈴木 康人(プ)	☆鈴木 正樹(数)	☆大津 孝佳(知)	
同好会(芸術系)	☆芳野 恭士(合)	☆宮下 真信(軽)	☆西村 賢治(大)	☆成田 智子(茶)	☆村上 真理(E)
	☆大沼 巧(ア)				

令和2年4月1日現在

同好会(理工系):機械工学・プロコン・数理・知財

同好会(芸術系):合唱・軽音楽・大道芸・茶道・ESS・アカペラ

## 着任挨拶



### 高専という場所に 帰ってきて

電子制御工学科  
香川 真人

今年度4月より、電子制御工学科に着任しました香川真人と申します。私は、徳島県の阿南高専専攻科を修了したあと、豊橋技術科学大学にて博士（工学）の学位を取得しました。高専を卒業してから5年、学校は違いますがまた高専という場所に帰ってくるようになりました。沼津という土地に来るのは初めてで、学生のみなさんと会うことに期待と緊張をしておりましたが、新型コロナウイルスの影響で未だ会うことができず非常に残念です。1日でも早く会えることを願っています。

私の研究分野は、Human-Agent InterfaceやHuman Robot Interactionと呼ばれる分野で、人とロボットとのコミュニケーションの様相についてデザインする研究になります。「ロボット」と聞くとどうしてもそのロボット単体でな

でも出来てしまう、便利なロボットをイメージする人が多いと思います。ですが、私が作っている「ロボット」はそんなロボットから少しかけ離れた、一人では何もできない、一見何の役にも立たなさそうなロボットです。私たちの普段の生活を思い浮かべてみると、すべての出来事を1人でこなすには困難であり、他者に助けをもらいながら、あるいは他者を助けながら目的を達成する場面が多くあるのではないのでしょうか。自分の得意なことを生かしつつ、苦手なことを他者に支えてもらうこの関係を人とロボットとで実現することを目的としています。

一人では何もできないながらも、周囲を巻き込むことで、みんなで何かできてしまう。そんな関係性を築っていくロボットとの触れ合いでは、私たち人が元々持っている優しさをうまく引き出され、結果として豊かなコミュニケーションを育むことができる可能性があるのではないのでしょうか。

私も着任したばかりで、沼津高専についてわからないことばかりです。みなさんに支えてもらいながら、私の持っている知識や経験を社会に役立つ若い技術者の育成に少しでも役立てられるよう努めていきます。

## 教育後援会から

### 教育後援会にできること、 しなければならないこと

教育後援会会長 土屋 善隆

新入生の皆様、そして保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。例年ならば、この言葉が聞かれるはずが、今年度は「入学式はできるの?」「学校はいつから始まるの?」といった心配や不安の声で始まりました。

本稿を書いている現在は、沼津市内の小中学校では、6月1日からの学校再開に向け、臨時登校を行っています。また、高等学校では一足早く学校が再開されました。一方、沼津高専では5月18日に入学式を行い、遠隔通信による授業が始まったところです。どうして、沼津高専では通常の学校生活が始まらないのかという疑問が募ります。正直、わたしもそうでした。でも、沼津高専には特殊な事情があることが分かったとそんな疑問はどこかに吹き飛んでしまいました。沼津高専には公共交通機関を使い、県を跨いでの通学者が大勢いること。500人近くの寮生がおり、寮食をはじめとする集団生活の安全管理が難しく、学生寮がクラスターに陥る心配が拭えないこと。可能な限り自宅から通う学生を増やし、寮生の数を

減らすことは学生や保護者の思いもあり、簡単には解決できません。このような事情から、周りの学校とは異なり、早急な学校生活の再開は難しいようです。本稿が掲載される「沼津高専だより」第117号がお手元に届く頃、学校が再開されているとは限りません。まだ、遠隔通信による授業が続いているかもしれません。では、わたしたち保護者の集まりである「教育後援会」はどうしたらいいのでしょうか?第113号に当時の大川教育後援会長は、次のように書いています。「どうぞ学生諸君、君たちの周りの社会の先輩である大人が、沼津高専生としてより良い学生生活を送るために、喜んで協力する準備があることを信じて、自分たちの力に余る様な、事態、事象の時には声をかけて下さい。」と。「教育後援会」は文字通り、沼津高専の様々な教育に関する事柄を「うしろだて」になって、応援、援助する組織です。沼津高専の学生がこのコロナ禍を乗り越え、「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」という教育理念を達成するために、どの学生も遅滞なく授業を受けられること、対面授業や実習を補うために工夫されている先生方が遠隔授業をしやすい等々の環境整備が必要かもしれません。その他の支援も考えられます。とにかく、学生の授業が保障され、学力が担保されるよう皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

## 三つのポリシー

ディプロマ・ポリシーは、卒業認定の方針である。

カリキュラム・ポリシーは、教育課程編成・実施の方針である。

アドミッション・ポリシーは、入学者の受入れの方針である。

### 本科

#### 【ディプロマ・ポリシー】

全課程を修了して167単位以上（一般科目75単位以上、専門科目82単位以上）を修得し、以下の能力を身につけた学生の卒業を認定し、準学士（工学）を授与する。

- A 技術と自然や社会との関わりや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力。
- B 環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に関する課題に数学、自然科学及び情報技術の知識を適用できる能力。
- C 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のうち、いずれかの専門的知識を理解できる能力及び工学的課題を解決するため、必要な情報やデータをハードウェア、ソフトウェアにより収集し、整理できる能力。
- D 自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を正しく用いて、報告できる能力及び自己の研究等に関する英語の記述や論文を7割程度理解でき、自己の研究成果等の概要を英語でわかりやすくまとめることができる能力。
- E 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力及び自己の研究に関連する文献を調査・選択し、講読できる能力。

#### 【カリキュラム・ポリシー】

ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のカリキュラムを編成する。

- A 技術と自然や社会との関わりや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力を身につけるため、1～3年次に人文・社会科学（社会）に関する科目でLevel 2（理解レベル）までを、4・5年次にLevel 3（適用レベル）までを身につける。
- B 環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に関する課題に数学、自然科学及び情報技術の知識を適用できる能力を身につけるため、1～3年次に数学および自然科学（物理・化学）に関する科目でLevel 2（理解レベル）までを、4・5年次にLevel 3（適用レベル）までを身につける。
- C 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のうち、いずれかの専門知識を理解できる能力を身につけるため、5年間で専門科目82単位以上を履修する。また、工学的課題を解決するために必要な情報やデータをハードウェア、ソフトウェアにより収集し、整理できる能力を身につけるため、5年次に卒業研究を履修する。
- D 自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を正しく用いて、報告できる能力を身につけるため、4・5年次に人文・社会科学（国語）に関する科目でLevel 3（適用レベル）までを身につけ、5年次に卒業研究を履修する。また、自己の研究等に関する英語の記述や論文を7割程度理解でき、自己の研究成果等の概要を英語でわかりやすくまとめることができる能力を身につけるため、1～3年次に人文・社会科学（英語）に関する科目でLevel 2（理解レベル）までを、4・5年次に工業英語に関する科目でLevel 3（適用レベル）までを身につける。
- E 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力を身につけるため、1～5年次に卒業研究を除く実験・実習・演習に関する科目16単位以上を履修する。また、自己の研究に関連する文献を講読できる能力を身につけるため、5年次に卒業研究を履修する。

**【アドミッション・ポリシー】**

以下の意欲、および学力を有する者を、推薦選抜においては、調査書、推薦書、個人面接により、学力選抜においては、学力検査、調査書により確認し、受け入れる。

1. 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を有する者。(知識・技能)
2. 科学技術を用いて社会に貢献する意欲の有る者。(主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度)
3. 科学技術の役割、技術者の責任を考えられる者。(思考力・判断力・表現力等の能力)
4. 他人の意見を聞き、自らの意見を言える者。(思考力・判断力・表現力等の能力)

**専攻科****【ディプロマ・ポリシー】**

以下の能力を身につけ、専攻科に2年以上在学し、所定の単位修得条件の下で合計62単位以上を修得した者の修了を認定する。

- A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力
- (A-1) 「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる能力。
  - (A-2) 「工学倫理」および「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる能力。
- B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢
- (B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる能力。
- C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力
- (C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる能力。
  - (C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる能力。
  - (C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる能力。
- D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力
- (D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる能力。
  - (D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる能力。
- E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢
- (E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる能力。
  - (E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる能力。

**【カリキュラム・ポリシー】**

ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のカリキュラムを編成する。

1. 教育課程を一般科目、コース専門科目、専門共通科目、専門展開科目によって編成する。
2. 一般科目を必修科目（工学倫理、語学系）と選択科目（人文社会科学系）に分類し、必修8単位のほか、選択2単位以上を修得する。
3. コース専門科目は選択科目（環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系）のみとし、所属コースのコース専門科目を10単位以上修得する。
4. 専門共通科目を必修科目（知的財産）と選択科目（数学、自然科学系）に分類し、必修2単位のほか、選択6単位以上を修得する。

5. 専門展開科目を必修科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ、専攻科実験、学外実習、実践工学演習）と選択科目に分類し、必修24単位のほか、選択10単位以上を修得する。
6. 設計・システム系、情報論理系、材料・バイオ系、力学系、および社会技術系の5科目群系に科目を分類した場合、合計6科目以上、各群系から1科目以上を修得する。
7. ディプロマ・ポリシーに示される各能力に対応する科目を1科目以上修得する。

上記7に関し、各能力と授業科目とは以下のように対応する。

- A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力
  - (A-1) 「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる能力を身につけるため、一般科目（人文社会科学系）、コース専門科目（環境エネルギー工学系）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
  - (A-2) 「工学倫理」および「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる能力を身につけるため、一般科目（工学倫理）、コース専門科目（環境エネルギー工学系、医療福祉機器開発工学系）、専門共通科目（知的財産）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える能力
  - (B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる能力を身につけるため、専門共通科目（数学、自然科学系）、コース専門科目（新機能材料工学系）、専門展開科目（選択）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力
  - (C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる能力を身につけるため、コース専門科目（環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系）、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ、選択科目）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
  - (C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる能力を身につけるため、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
  - (C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる能力を身につけるため、専門展開科目（選択）、コース専門科目（環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力
  - (D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる能力を身につけるため、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
  - (D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる能力を身につけるため、一般科目（語学系）、専門展開科目（専攻科研究Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢
  - (E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる能力を身につけるため、専門展開科目（学外実習、実践工学演習、専攻科実験）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
  - (E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる能力を身につけるため、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。

## 【コース別カリキュラム・ポリシー】

コース専門科目は、各コースにおいて下記の方針で編成され、実施される。

- (1) 環境エネルギー工学コース
 

機械工学、電気電子工学、応用物質工学、情報工学などの工学分野を融合複合した、環境と新エネルギー、エネルギー変換工学及びエネルギー応用工学を中心に深く学修し、A-1、A-2、C-1、C-3に対応した能力を

Level 4（分析レベル）までを身につける。

(2) 新機能材料工学コース

機械工学、電気電子工学及び応用物質工学分野を支える基盤材料として、金属、セラミックス・炭素材料、高分子、生物材料の構造や物性、材料設計作成法について包括的に学修し、B-1、C-1、C-3に対応した能力をLevel 4（分析レベル）までを身につける。

(3) 医療福祉機器開発工学コース

機械工学、電気電子工学、情報工学などの工学分野並びに解剖生理学、生体医用工学など医工学分野を融合複合した、医用機器工学、福祉機器工学などを中心に深く学修し、A-2、C-1、C-3に対応した能力をLevel 4（分析レベル）までを身につける。

### 【アドミッション・ポリシー】

以下の意欲、学力及び経験を有する者を受け入れる。

1. 広い視野と深い専門性を身につけて、社会の発展、公衆の福祉に寄与する意欲を有する。
2. 工学教育を受けるために必要な数学、自然科学及び英語の学力を有する。
3. 基礎的な工学について、一定の指導と訓練を受け、実践した経験を有する。

これらをこれまでの学習成果、自己申告書、推薦書、試験、面接などによって確認する。

「沼津高専だより」に関するお問い合わせ

出版委員会（事務担当：総務係）

Tel：055-926-5712

E-Mail：soumu@numazu-ct.ac.jp



#### 沼津高専サテライトオフィス (N-com) 開所式

N-com は沼津高専、沼津市や沼津駅の頭文字 “N” と、common (共有)、community (共同)、communication (交流) の “com” の組み合わせです。